

5月3日(日曜日)「ソロモン(5)神殿の奉献」

【新改訳 2017】

Ⅰ 列王記 8・1—66

「それから……主の契約の箱を、定め場所、すなわち神殿の内堂である至聖所のケルビムの翼の下に運び入れた。……主の栄光が主の宮に満ちた……」(6—11節)

神殿の、いわば「献堂式」の様子を書いています。神殿の内装工事、設備、備品などが幕屋の造りに準じて整えられ、今、イスラエルの全集団とともに主の前で神殿をささげる式をしました。

注目すべきことはたくさんあります。①主の契約の箱(二枚の十戒の石の板)が所定の所に置かれて、準備が完了していることです。みことばと主の臨在があって初めて神殿(教会堂)なのです。②主は、ご自分の栄光で満たしてくださいました。これは神の認知と祝福を意味しました(出エジプト40・34ほか参照)。③ソロモンの祈りは、神が彼の父ダビデに語られた約束など、過去の恵みの上に立っています。会堂建築も、それまでの主の恵みと信徒たちの信仰があって可能となっていることを忘れてはならないことを教えられます。

～祈り～

主よ。今、このように会堂を与えられていることを感謝します。あなたが用いられた信徒たちを祝福してください。あなたの臨在を確信し、祝福をいただけますように。

【学びのために】

神殿について:ソロモンの神殿、あるいは第一神殿とも呼ばれています。父ダビデが準備し、ソロモンが建てました。完成はBC950年ごろ。これから次第にイスラエルの民の生活は、神殿中心主義になっていきました。BC586年にバビロンの王によって、破壊されました。